

甲南大学法科大学院入学試験問題について

2017年度秋入学・2018年度春入学
一般入学試験（A日程・8月19日分）

試験科目：憲法

1. 出題趣旨

【第1問】

堀越事件（最判平成24年12月7日刑集12号1337頁）を基にした事例問題である。事実は判例とほぼ同じであり、現実に無罪判決が出ているので、判決に沿った記述ができれば良い。

実際の判決をきちんと再現するとかなり長い記述となること、法令違憲、適用違憲の両方を論点としうることから、設問は1つとし、反論の記述は求めないことにした。憲法的観点からYを無罪とする記述ができれば良いので、法令自体の合憲性と法令の解釈適用の仕方のいずれを論じても良いが、実際の判決に近い答案（法令の解釈適用）の方が評価は高い。

【第2問】

統治の分野の基礎知識を問う問題である。

（以下、第1問について）

2. 採点実感

参照すべき判例を誤っているもの、そもそも判例に沿って記述する姿勢のないものが散見され、それらは評価が低くなった。

判例の事案とほぼ同じ事例問題であったが、判例の理解の程度や文章力（論理性、表現力など）で相当程度の差が出た。

3. 学習方法

法曹を目指す人は判例学習をおろそかにすべきではない。判例は、判決等の論理だけでなく、事実の概要を踏まえて分析、理解、暗記する必要がある。